

財政健全化

判断比率等

財政の健全性を示す指標の公表

町の財政状況がどのような状況にあるのかを判断するため、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」において地方公共団体の財政の健全性を示すものとして定められた統一的な指標です。

監査委員の審査を受け、議会に報告するとともに、町民の皆さまへ毎年公表することが義務付けられています。

◆健全化判断比率

●4つの指標があります

- ①実質赤字比率
- ②連結実質赤字比率
- ③実質公債費比率
- ④将来負担比率

それぞれに早期健全化基準と財政再生基準があります（④は財政再生基準なし）。

●①～④のどれか1つでも早期健全化基準以上になると、自主的な改善努力による財政の健全化を図るため、「財政健全化計画」を策定し、外部監査を求めなければいけません。

●①～③のどれか1つでも財政再生基準以上になると、「財政再生計画」の策定が義務付けられ地方債の発行が制限されるなど、国などの関与による確実な財政の再生が求められます。

	①実質赤字比率	②連結実質赤字比率	③実質公債費比率	④将来負担比率
令和6年度	—	—	9.0%	—
早期健全化基準	14.58%	19.58%	25.0%	350.0%
財政再生基準	20.00%	30.00%	35.0%	

※実質赤字額または連結実質赤字額がない場合、および実質公債費比率または将来負担比率が算定されない場合は「—」で表示します。

各指標の説明

①実質赤字比率

福祉、教育、まちづくりなどを行う地方公共団体の一般会計の赤字の程度を指標化し、財政運営の深刻度を示すのが「実質赤字比率」です。

この比率が高くなるほど、赤字の解消が難しくなってくるので、より多くの歳出削減対策や歳入の増加策を講じるとともに、解消の期間も長期間にわたる可能性が高くなるなど深刻な事態になっているということになります。

②連結実質赤字比率

すべての会計の赤字や黒字を合算し、地方公共団体全体としての赤字の程度を指標化し、地方公共団体全体としての運営の深刻度を示すのが「連結実質赤字比率」です。

この比率が高くなるほど、より多くの歳出削減対策や歳入の増加策を講じなければならなくなり、また、その解消期間も長期間にわたる可能性が高くなります。

③実質公債費比率

借入金（地方債）の返済に関連する金額の大きさを指標化し、資金繰りの危険度を示すのが「実質公債費比率」です。

この比率が高まるほど、財政の弾力性が低下し、他の経費を節減しないと赤字団体に転落する可能性が高まるなどの一般会計の資金繰りの危険度を示す指標です。

④将来負担比率

地方公共団体の一般会計の借入金や将来支払っていく可能性がある負担などの現時点における残高の程度を指標化し、将来財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示すのが「将来負担比率」です。

この比率が高い場合、将来こうした負担額を実際に支払っていかなければならないので、今後の財政運営が圧迫されるなど問題が生じる可能性が高いといえます。

⑤資金不足比率

公営企業の資金不足を、公営企業の事業規模である料金収入の規模と比較して指標化し、経営状況の深刻度を示すのが「資金不足比率」です。

この比率が高くなるほど、料金収入で資金不足を解消するのが難しくなることから、公営企業として経営に問題があることになります。

◆資金不足比率

公営企業会計ごとに算定し、経営健全化基準以上になると、公営企業の経営健全化を図るため、「経営健全化計画」を策定し、外部監査を求めなければいけません。

会計名	⑤資金不足比率 令和6年度	経営健全化基準
水道事業会計	—	20.0%
簡易水道事業 特別会計	—	
下水道事業 特別会計	—	

※資金不足額がなく、比率が算定されない場合は「—」で表示します。

湧別町の財政は健全

湧別町の令和6年度決算における健全化判断比率および資金不足比率は、すべて基準を下回り、町の財政は健全であることを示す結果となりました。

今後も健全な財政状況を維持できるよう適正な財政運営に努めます。

自立

×

共生

自分の意見を持ち、相手に伝えることができる

ほめ言葉など、お互いに気持ちのいい言葉を使うことができる

自分やお友達の気持ちを認識し、言葉で伝えることができる

嫌な時には「やめて」と伝え、話し合いで解決することができる

違いを受け入れ、自分と異なる人を排除せずに尊重することができる

協力して遊びや活動を決め、コミュニティに貢献することができる



対立とけんかの
違いは？



どうやって解決
しようか！

7年間取り組んだ中で、「話しを聴く」「相手の気持ちを知る」「自分の意見を持って相手に伝える」力が付いたと感じます。年長児のレッスン後期になると、真剣に参加する姿が見られるようになりますよ。

園の生活の中でトラブルがあったとき、レッスンでの学びを生かして解決に導くことができます。

レッスンでの経験が、納得する心へとつながっています。



湧別認定こども園
鈴木園長



湧別町立保育所での取り組み

ピースフルスクール

ピースフルスクールとは

ピースフルスクール（以下、PSP）は、世界一子どもが幸せな国といわれるオランダ発祥。いじめや子どもの問題行動に対する根源的なアプローチとして開発されました。

湧別町では、PSPの日本への導入を行っているクマヒラセキュリティ財団 熊平美香さんのご指導のもと令和元年から湧別認定こども園や芭露保育所で開始され、今年で7年目。年中児から年長児まで全26回のレッスンを、パペットを使った劇で行います。

レッスン内容は、コミュニケーションの基礎力を伸ばすことから、誰かのために動く力を身につけるまで。初めは課題をもらって行っていたレッスンも、最終的には自分たちで話し合い、実行できる主体性が身につきます。

<充実した研修>

保育士は、レッスン後に熊平さんとオンライン学習を行い、レッスンについての指導を受けています。また、年に1回熊平さんが来町した際に、勉強会を実施。保育士が自分自身を見つめなおし、一人ひとりが持つ能力を生かして子どもたちと向き合えるよう、学んでいます。



利用者満足度◎

町の「保育園留学」が好評です！

町で取り組んでいる「保育園留学」が、利用者から高い満足度を得ています。都会では味わえないオホーツクの自然環境や、町民の皆さんの温かな対応が子どもたちにもご家族にも大好評です。

保育園留学とは

都市部に住むご家族が、地方で1～2週間生活し、その地域の保育園を利用しながら地方暮らしを体験できるプログラムです。

昨年9月から取り組みを開始し、湧別認定こども園で子どもの受け入れを行っています。

令和7年度は、6月から9月までの3カ月間で7組23人のご家族が湧別町での暮らしを体験しています。

利用したご家族の感想

まちの温かい雰囲気と大自然の中で貴重な体験ができた

最高に楽しくかけがえのない時間が過ごせた

帰りたくない、また絶対来たい

町の方々が温かく穏やか

町の皆さんの笑顔には嘘がなく、豊かで素敵な町

住民の皆さんの人柄も湧別町の魅力になっています

すでに2回目の留学を予約されいるご家族や、二地域居住や移住に夢を膨らませているご家族も！



和歌山県在住の小川さんご夫婦は、3歳と1歳のお子さんと共に2週間のプログラムを体験。期間中、「町長いつでもカフェ」でお話を伺いました。

育児休暇中のため「観光では行かない場所へ」と、湧別を選んだというお二人。町での生活を、「湧別の方々のご厚意で、タマネギの収穫や牧場見学など、日ごろの生活ではできない貴重な体験ができた。流氷も見たいし、今回お世話になった方々にもう一度会いたいの、別の季節にもまた来たい」と振り返りました。

小川さんは、湧別認定こども園で留学を体験したお子さんについても、「もうすぐ帰ると伝えたと、北海道がいい！と。園にも泣かずに通い、楽しんでた」と話し、湧別での生活にご家族の皆さんが満足されている様子でした。

「保育園留学」は、都会で暮らす子どもたちが地域外のお友達とふれあうきっかけになります。また、湧別町への関心が高まることで、二地域居住や移住を考えるきっかけとなっています。

湧別町では、“人と人とのつながりを大切に”、“子育てにやさしいまち”への取り組みを行っています



この事業は、サマージャンボ宝くじの収益金を活用して実施しています。

広告

お電話1本、24時間、365日お迎えに伺います



株式会社

えんがる葬祭

☎0158-42-9898

遠軽町学田2丁目6-1 FAX 0158-42-9933

24時間
受付

式場収容数

・大ホール400名
・中ホール200名
・小ホール100名
・法事ホール